

市民のために最高の芦屋を



リード芦屋新聞

発行元
リードあしや
高菜奈英 校
屋仁靖将 屋
立藤田藤 千
豊佐田太 田
佐佐木 太

どうなる 駅南再開発

10月24日にリードあしやで、「みんなで聞いてみよう！」という、芦屋市民に向けてのZoom意見交換会が行われた。内容は、JR芦屋駅の再開発に向けての目標と目的、事業を取りくむ際に抱える課題、予算の増減についてだった。話し手は、都市整備課の辻宏治さんと、同じく都市整備課の柴田陽子さんの二人だった。

芦屋市の計画は、再開発事業としてのビルの建設と

芦屋らしい街づくり

市民、皆で考える未来の姿



市の担当者の説明の後、参加した市民らが、現状や見通しについて質問をした。「市議会で認められなかった要因は何か？」という質問に対しては、「最初の見通しよりも事業費が多くなり、10年後には芦屋市の財政が圧迫され貯金が無くなってしまうかもしれない、というのが一番の理由」と説明した。

背景として、再開発に伴って地価が高くなっている現状を明かした。地価は市ではどうすることも出来ない、ビル、ロータリー、デッキなど全てについて「1円でも下げるよう検討している」と答えた。また、「ペDESTリアンデッキは費用が多くなるのでは？」という質問に、

公共施設である交通広場の整備、駅前線の拡幅。関連事業として、公共施設である自転車駐車場と、ペDESTリアンデッキの開発、公益施設を再開発ビルの3階に整備することだ。実行する流れは、都市計画決定↓事業計画決定↓施行規定の策定↓管理処分計画↓用地の所得↓工事↓工事を完了↓公告↓清算となる。しかし、今年の3月議会でも予算が認められず、12月議会に持ち越されることになった。否決の理由は、再開発計画に伴って地価が高騰し、事業費が膨れ上がった。市民がこれ以上負担することへの反対意見も多かった。この事業を実行するに對しての目標は、市民の安全と安心を守ることであり、新しいビルをつくることの主ではないことが分かった。「もつと芦屋に住む人が増えて欲しい」という思いで、将来の市民のために開発事業を行っていることがわかった。成功して欲しいと思う。

芦屋市全体へ活気を 「今」ではなく「将来」への事業



「まずは1人でも多くの方に、このJR芦屋駅南地区再開発事業について知ってもらいたい」と思っています。芦屋市都市整備課担当課長の辻宏治さんは、「みんなで聞いてみよう！」と参加した後、リードあしや新聞のインタビューに対し、そう語った。JR芦屋駅南側にて進められている再開発事業について、市の担当者からの説明があった後、現状や見通し、不明点などをZoomを使いオンライン上で質問し、交流すると言った趣旨のイベントだった。

「これは『今』ではなく、『将来』のための事業です。新しい南地区の姿を楽しみにしている方々のために、事実上ストップした現在の状況を打開し、速やかに事業を進めることで、芦屋市をもっといい街にしていきたいです」と、思いを聞かせてくれた。

で、造りをシンプルにする」と答えた。「JR芦屋南口の再開発の第1の目的は？」という質問には、「綺麗な道路をつくること」と回答。辻さんは「芦屋らしい街づくりをする」と決意していた。